

次なる感染症危機への備え

～新しい政府行動計画が目指すもの～

国民目線で考える

令和7年1月10日

読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員 坂上博

1. 政府行動計画を読んで

- ◆ コロナ禍で露呈した問題点は、①感染症への準備を怠った②対策の判断基準が分かりにくかった③対策が時に硬直化して後手に回った・・・ことだ。
- ◆ 政府行動計画は、「平時の備えの充実」「柔軟かつ機動的な対策の切り替え」などを重視しており、とても評価できる。
- ◆ ただし、国民向けの計画ではないので、内容が分かりにくい側面がある。計画を踏まえて国民が何をすべきか、分かりやすく解説したパンフなどの作成を。





2. 平時から備えよう

- ◆ 地下鉄でマスクをしないで咳をする人を見かける。感染を広げて医療を逼迫させ、高齢者らが命を落とす危険性があることを想像して、適切な行動を心がけよう。
- ◆ 政府行動計画は、「平時から新型インフルエンザなどへの備えを充実させる機運（モメンタム）の維持を図る」ことが大切だと指摘。その通り！
- ◆ 日々の生活で忙しく感染症への意識の優先順位は下がりがち。国や都道府県は「感染症を考える月間」などを定め、国民がコロナの教訓を思い返す機会の提供を。